

## 学内探訪

## クリスマス礼拝・祝会

2000年にちなんで、ちょっと早いクリスマス礼拝・祝会を紹介したい。

クリスマス礼拝・祝会は、本短大で最大の行事である。そして、最も沖縄キリスト教短期大学らしい行事もある。

普段のキャンパスは、学生たちは宿題や課題そしてアルバイトに追われ、教職員はそれぞれのノルマに追われるというあわただしい生活を余儀なくされている。

12月という月は不思議に、学内全体が平和で、豊かで、厳粛な雰囲気に満たされる。そして、イエス降誕日の25日には、その昂揚は最高潮に達する。

今年も又、12月22日（金）にイエス・キリストの聖誕を祝して燭火讚美礼拝が行われる。暗闇の中に灯る蠟燭の光の下で、讃美歌を歌い、聖書のメッセージを聞き、聖歌隊の合唱に耳を傾けることを通し、深い感動を味わう。喜びと希望の中に精神的豊かさを覚え



イエス・キリストによる平和を心静かに祈る。今年は、長年の夢であったオルガンがクリスマス前の11月に設置される。華やいだクリスマスに、又一つ莊厳さが加わることとなる。

チャペルでの礼拝のあとは、体育館において祝会が催される。この日ばかりは、食あり、歌あり、ドラマあり、何でもありと一年のうちで最も楽しい時をもつ。学生・教職員が共に集い、食し、話し合い、豊かな人間関係を築く機会である。

最後に忘れてならないのはクリスマス献金である。クリスマスは、救い主イエスが私達に与えられた恵みに感謝を現すときである。毎年、礼拝時にクリスマス献金を募っている。昨年のクリスマス献金はフィリピンの子供たちとアイヌの子供たち、そして、台湾大地震の被災者・日本聖書協会・止揚学園・日本キリスト教海外医療協力会・パングラデッシュ寺子屋運動・愛隣園等。以上の方々に捧げられた。

## 人事

## 採用(2000年4月1日付)

大城 実 総合教育系特任教授  
大城 宜太郎 事務局長

## 採用(2000年6月1日付)

與那原 馨 情報センター書記

## 兼任(2000年9月1日付)

山原 恵治(参与)

参与兼50周年記念事業推進本部事務局記念行事・財務室々長  
与儀 勝彦(就職課長)

就職課長兼50周年記念事業推進本部事務局四大設置準備室事務長

## 異動(2000年9月1日付)

宮元和子(学生課主任)→図書館主任  
松田道子(図書館書記)→総務企画課主任  
外間きみ子(総務企画課書記)→学生課主任  
渡慶次智子(総務企画課書記)→入試課書記  
座波みゆき(総務企画課秘書)→学生課書記  
城間勉(入試課書記)→総務企画課書記  
平良みどり(学生課書記)→総務企画課秘書

## 編集後記

今、いろんな分野で変革ということが言われている。当然のごとく教育の分野もしかり。

今度、発足した開学50周年記念事業推進本部は、新世紀に向けての、変革と生き残りをかけたプロジェクトである。学内外の熱い視線が注がれるなかにあって、同事業の成功を念じたい気持ちである。そして、2ヶ年間『学報』の編集に携わることができたことを感謝したい。(外間きみ子)



## 沖縄キリスト教短期大学

2000年10月1日発行

## 学報 第47号

沖縄県西原町字翁長777

☎(098)946-1240 ☎(098)946-1241

編集・発行

沖縄キリスト教短期大学総務企画課

URL <http://www.ocjc.ac.jp/>

## 記事内容

★1999年度の就職活動を振り返って

.....就職課長 与儀勝彦

★キャンパスライフ

実習を終えて今思うこと.....酒井千春

ボランティア活動への期待.....棚原亜沙美

0から始めること.....仲村綾子

★留学生紹介.....林 晓青

★がんばっています卒業生

キリストと共に.....箕面市立稻保育所 古武正敏

インドで学んだこと...世界銀行 仲座栄利子

★寄付感謝報告

★1999年度決算報告

★学内探訪「クリスマス礼拝・祝会」

★学内人事



## 早期英語学習の効用

英語科教授／教務部長下地玄毅



過日、『英語達人列伝』という本を興味深く読んだ。国際化が叫ばれ、小学校への英語教育導入が巷間の話題になっている。昨今、英語達人たちがどのように英語を学習したかはわれわれに示唆を与えてくれるところが多い。基本的に日本にいながらにして英米人も舌を巻くほどの英語力を身につけ、決して西洋かぶれする事なく、日本と外国との橋渡し的な役割を演じた、ということを選考の基本として新渡戸稻造、岡倉天心、斎藤秀三郎、野口英世など10名の英語達人たちを紹介している。

新渡戸稻造は、“Boys, be ambitious!”で有名な札幌農学校でクラーク博士の下で教育を受けた後、米国、ドイツへ留学する。帰国後は札幌農学校をはじめ京都帝國大学、東京帝國大学、その他の大学教授を歴任した。後年、国際連盟事務局次長として、若い頃の夢であった世界の懸け橋として活躍した。新渡戸稻造が、日本人の精神、倫理観の根源について外国に紹介するために書いた *Bushido, the Soul of Japan* は名著として今なお広く読まれている。時のアメリカの大統領ルーズベルトが深い感銘を受けたという隠れたエピソードもある。

岡倉天心は24歳になるまで外国に出たことはなかったようだが、あるとき弟子の横山大観らと羽織袴姿でボストンの町を闊歩していた。100年前の話である。その時すれ違った青年に次のように冷やかされた。“What sort of ‘nese are you people? Are you Chinese, or Japanese, or Javanese?” 東洋人に対する偏見に満ちたこの台詞にすぐさま切り返した。

“We are Japanese gentlemen. But what kind of ‘key are you? Are you a Yankee, or a donkey, or a monkey?” ちなみに、donkeyには「ロバ」という意味のほかに「馬鹿者」という意味があることを付け加えておこう。

日本美術界の巨匠であった岡倉天心は、主要な著作のすべてを英語で書いた。その中で、*The Ideals of East* や *The Book of Tea* などはいまだに日本研究を志す外国人の必読書といわれている。

その他の英語達たちのことは省略するが、幕末から明治初期にかけて生を受けた上記の英語達人たちにとっては、個人差はあるものの英語学習の環境は必ずしも恵まれていたとは言えない。現在に比べれば、むしろ劣悪な環境にあったというべきだろう。それにもかかわらず、彼らが達人になれたのは凡人には真似のできないような超人的な努力を重ねたからである。もう一つの共通点を挙げれば、彼らの多くが幼少期もしくは児童期に英語の学習を始めているということである。この事実特に注目したい。

広く知られているように、文部省では2002年度から公立小学校へ英語教育を導入することになっている。そのことを巡って巷間ではその功罪について議論が百出している。外国語の学習は、母国語を習得し終えた6歳頃から8歳頃までが最もよい。この時期は右脳の働きが活発で模倣力が最も旺盛である。この時期までに外国語は学んだほうが自然に習得でき、教育効果は大である。児童期は、異文化に対しても偏見を持たずに受け入れる柔軟性を持っている。国際理解教育の面からも早期に外国語教育は導入したほうがよい。以上が、早期英語教育導入賛成者の主張である。

これに対して反対論者は次のように反論する。母国語も満足に使いこなせない子に、外国語を教えると日本語を乱すもとになり、学力低下を招く。だから英語教育は中学校からでよい、等々。

しかし、現在、全国の私立小学校のおよそ88%、公立小学校のおよそ22%で、何らかの形で英語教育が行われているというが、反対論者が主張するような報告はなされていない。

中学生は、小学生が持っている語学習得に必要な特性的多くを失ってしまっている。例えば、小学生は耳から物事を覚え、体当たりで言葉を学び、また、繰り返しを嫌がらない、模倣が上手である、などである。だから中学生からの導入は、外国語習得の最適期を逃していることになる。

脳生理学者によると、児童期に外国語を覚えてしまえば、何年かブランクがあっても、シナプスと呼ばれる神経細胞の継ぎ目は残るという。後年、改めて外国語を学習した場合、その外国語能力が復活し、経験のない人に比べて大きな違いが出てくる。

早期英語教育導入によって、21世紀の我が国の英語教育にどのような成果が現れ、どのような人材が育っていくか注目ていきたい。

(しもじ・げんき)

## クローズアップされている 「少子化・子育て問題」

保育科助教授／保育科長



山城 真紀子

が子どもを「社会全体の宝」として社会全体で育していくことが大切であるという考え方を打ち出している。

その上で、少子化が教育に及ぼす影響を最小限に止めるために政策的な対応を図り、少子化の下で可能な限り教育条件の充実を図るとともに、家庭・学校・地域社会において、それがその役割を踏まえた上で取り組むべき具体的方策を提言している。幼児教育に関しては、子育てをしながら働いたり、学んだりできるよう、幼稚園や保育所における子育て支援の充実を提起している。

特に、幼稚園教育では、幼稚園における家庭と地域が連携した子育て支援の充実、幼稚園と小学校・保育所との連携などの施策を体系的に盛り込んだ「幼児教育振興プログラム」を策定し推進するとともに、すべての高等学校での保育体験学習の推進など「子育て理解教育」を推進することなどを求めている。大学の教養教育でもそれらの施設での体験を位置づけることを提起している。

単なる出生率の向上のための対策でなく、子どもの人権保障や親と子どもが家庭と地域社会で豊かな文化的生活を享受できる社会保障の視点で検討すべきである。

21世紀に向けて、今日の子育てをめぐる諸問題を洗い直して、新しい子育てのあり方と子育ての社会保障の方策をみんなで継続して明らかにしていく契機にできたらと考える。

保育者も元気がでよう。これから保育者は、親を支援し、地域の子育て支援者としての役割も期待されている。

(やましろ・まきこ)





# キャンパスニュース

英語科2年次上原キーフ君

毎日杯学生英語弁論大会 日本一の栄冠



毎日新聞社主催、第54回全国大学対抗英語弁論大会が7月15日(土)東京本社毎日ホールで開催された。同大会は、1947年にスタートし、日本で最も伝統ある英語弁論大会である。全国5地区の代表20名が出場し、英語力を競った。5分以内でスピーチし、その内容についての質疑応答も行われた。

上原君は西部地区(九州・山口・広島)代表として「Okinawa's Lonely Struggle」(沖縄の孤独な闘い)のテーマでスピーチした。全文は左記掲載のとおりだがその主な内容は、「米軍基地から派生する諸問題に、沖縄は“孤独な闘い”を強いられてきた。しかし基地は日本全体の問題であり、基地から生じる問題もまた全国民の問題である。問題の解決に、共に重荷を背負ってほしい」と訴えた。

上原君には、優勝カップのほか副賞として一週間の英国研修旅行等が贈られた。キーフ君はフィリピン生まれの日系3世で、「沖縄で英語教師になるのが目標」だと話す。国籍は日本。

本短大は地区代表として、何度も同大会に出場しており、昨年度も武島梨世さんが全国大会三位に入賞した。

## Okinawa's Lonely Struggle

By Uehara Keefe

If I say "Okinawa," what comes up to your minds right away? The beautiful beaches? The people? Shuri Castle? Kokusai Street? Scuba diving? The local wine, awamori, perhaps? I believe some of these have crossed your minds. And even for those of you who haven't been to Okinawa yet, I guess you've seen something about it on TV. But, let me ask you... how about the thunderous roar of U.S. fighter jets, the bombing practices in the mountains, the camouflaged trucks, or the barbed-wire tipped fences surrounding the U.S. military bases? Have any of these ever crossed your minds?

When I first came to Okinawa from the Philippines five years ago, I had nothing but a vague idea of the situation on the island. However, as the years went by, I came to understand the depth and complexity of this problem. Let me illustrate this.

Once, I and some friends from school, a Canadian, an Australian, and a New Zealander decided to hang out around town. We decided to go to a bar. However, much to my surprise, the man at the door took one look at us and told us bluntly that we could not enter. He told us that foreigners weren't allowed there. We tried to reason with him, saying that we were not American military personnel but foreign exchange students. Nevertheless, he was very adamant about not letting us enter into the bar.

This incident etched a deep impression on me. It was my first time to experience something like that. Of course, I felt angry. I asked myself, "How can they do this? They aren't treated like this when they go to other countries." Although I don't approve of it, I understand the bar owner's action of barring foreigners from the bar. This came after repeated incidents of some servicemen going away without paying the bill, picking fights, and doing even worse. Too bad, this bad image of some servicemen has been rubbed off on all American military personnel and other non-Japanese people living on the island. At the same time, I think that with a large number of military forces crammed together in one small area, incidents such as the ones I've mentioned can occur.

Incidents such as these are offshoots of the problem regarding the presence of the U.S. military bases on Okinawa. I believe you know that 75 percent of the total number of U.S. military personnel stationed here in Japan are in Okinawa. Perhaps to those who live outside Okinawa, this isn't a big deal, since it doesn't affect them in their day-to-day lives.

But, for the people of Okinawa, this is a big issue. It is they, the people of Okinawa, who have to deal with this every day.

People, even those in the Okinawan prefecture, are divided over this issue. Many people would like to see the bases dramatically reduced or even removed from the island. But, there are also those who are for the present situation. Both sides offer many weighty arguments and I do not want to take sides here. What I would like to point out is that this is an issue of national security. The discussion of this issue should not be limited only within Okinawa. It should involve everybody else in the nation. If we as a nation are to benefit from the security that the presence of the U.S. military offers, then we should share equally in the burden that having it begets. The people of Okinawa have been struggling with this problem for so many years now, and a lonely struggle it has been. I hope that with your help, this problem would eventually be resolved.

Thank you very much.

## 開学50周年記念事業推進本部 スタート

7年後にひかえた開学50周年に向け、2000年7月25日「沖縄キリスト教短期大学開学50周年記念事業推進本部」が正式にスタートした。主な内容は、四大設置準備室と記念行事・財務室から組織される。

2000年から2006年にかけて四大設置と短大

充実、そして、記念行事に関する諸業務を同推進本部が行うことが理事会で決定された。

従って、1991年以来、四大制大学設置のためにすすめてきたすべての事業は、50周年記念事業の一環として、今後は展開していくこととなる。配置人事については、卷末のとおり。

## Kauai Community College(ハワイ) Cha学長本短大訪問

2000年5月23日から24日にかけて、カウアイコミュニティカレッジのCha学長、Ms. Franklin, Chief Nishi, Mr. Tanaka, Mr. Yamamoto, Mr. Lai以上6名の先生方が本学を訪問した。

琉球大学の50周年記念事業に参加のために来県したCha学長一行は、Kauai Community Collegeと本短期大学とが姉妹校の提携を結んでいることもあり、本短大との交流のために二日間の日程をさいてくれた。



学長会談、各部署長そして国際交流委員との交流会、同時通訳クラスの説明会、Mr. Laiによる美術の講義のデモンストレーション等、多彩な内容は学生達にも大きな刺激を与えた。今後、両大学の交換プログラムの発展が期待される。



## 「沖縄キリスト教短期大学にパイプ・オルガンを贈る会」

### オルガン購入決定

西原キャンパス移転以来、活動してこられた「沖縄キリスト教短期大学にパイプ・オルガンを贈る運動」の実行委員会(委員長:伊波盛次郎牧師)が、ついにオルガンの購入契約を完了した。設置時期は2000年11月と決まった。

多くの関係者から早期実現の声が聞かれていたこともあり、内容を大幅に変更しての購入決定である。パイプ・オルガンがチャーチ・オルガンへと変更された。それは、多くの事を勘案しての決定である。

その理由は、まず、資金が思うように集まらなかつ

したこと。当初の目標額は2千5百万円を計画していた。また、高温多湿の沖縄においてパイプ・オルガンの維持管理費が想像以上にかかる。品質の優れたチャーチ・オルガンの音色はパイプ・オルガンのそれと、それほど違はないこと等以上の理由により、今回の購入決定となった。

いよいよ本短大に、念願のオルガンの音色が響きわたることとなる。この沖縄の地で、本学を通して教会音楽が根ざしていくのが楽しみである。

# 1999年度の就職活動を振り返って

就職課長 与儀勝彦

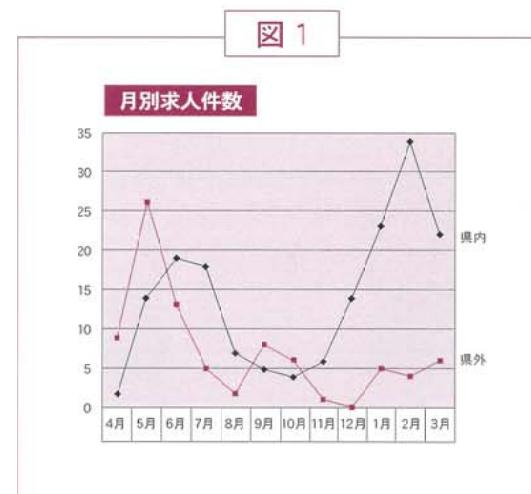


## 1. 求人状況

### (1) 求人件数 (図1参照)

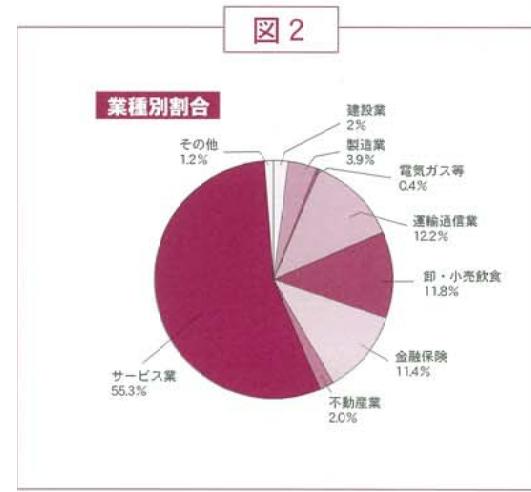
図1は県内と県外からの月毎の求人件数である。県外からの求人は5月をピークにその後急激に減少する。一方県内は5月～7月には20件近くの求人があるが、8月以降落ち込み12月以降急伸する。これは次の理由に拠る。

- ①保育園・幼稚園からの求人が、例年この時期12月から始まり、1・2月にピークを迎える。
- ②県内企業の多くは、年度初めには未だ人事計画の目処が立っていない。それに退職者の補充採用も多い。
- 因みに昨年度と比べると、県内の求人件数は若干増えたが、県外は3割もダウンした。



### (2) 求人業種 (図2参照)

サービス業が55%と圧倒的に多い（公務員は除く）。その多くは情報産業、ホテル、及び幼稚園保育園関係である。次に運輸通信業（空港関係、旅行社など）、卸小売、金融保険と続く。これらで9割を占める。



### (3) 非正社員採用の増加

最近の傾向として、正規の求人・採用が減り、非常勤・契約社員又は応募資格を四大卒とする企業が増えている。顕著な例が航空会社と県内地銀のケースである。最もマスコミ関係はずっと以前から短大生は対象外なのだが…。

## 2. 就職状況

### (1) 就職率 (%) は次の通りである。(5/1現在)

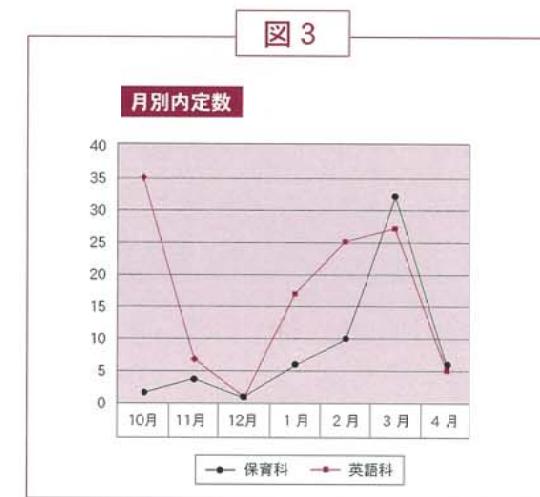
	英語科	保育科
1999 年度	76	91
1998 年度	57	63

就職率のUPは、勿論学生達が頑張ったから…なのだが、実は昨年8月迄短には就職課は無かつた。

た。課の新設で、我々はその業務に集中特化できたわけである。学内での学生への指導支援、そして企業・園等への挨拶回り。少なからず課の働きもあったのかな…と内心自負している。(o')

### (2) 月別内定数 (図3参照)

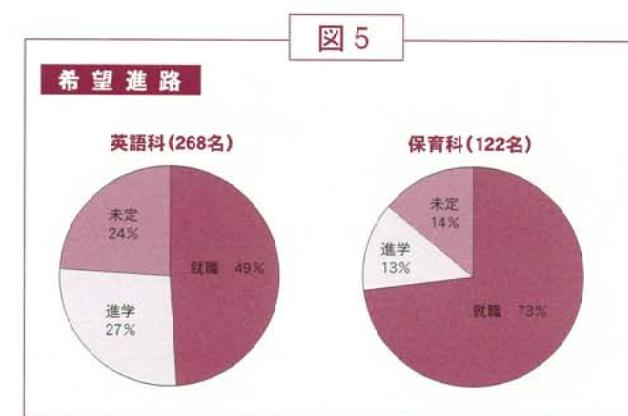
図3は10月以降の内定数の推移を表したものである。英語科は10月迄及び3月で7割の内定が出ている。又、保育科もやはり1月以降3月をピークにしている。（保育科はこの3ヶ月で内定数の85%を占める）当然ながら、これは、月別求人状況（図1）に応じたものであろう。



### (4) 希望進路について (図5参照)

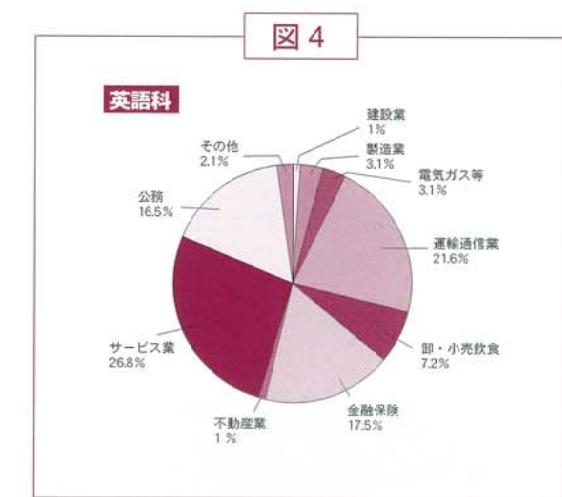
英語科は就職希望が卒業生の半分約5割となっている。進学希望と進路先を決定しない（できない？）者が年々増えている。

対照的に、保育科の学生は入学当初から進路先はしっかりと決めているようである。バブル時代には、結構保育科の学生も一般企業に就職していたのが思い出される。



### (3) 業種別就職状況 (図4参照)

図4は英語科の状況。保育科は9割近くの者が、幼稚園・保育園・施設等、専門職の道へ進んでいる。因みに両科で県外に就職した者は9名である。ここ数年10～15名で推移している。



父母との懇談会



模擬面接

### 3. 学生の就職活動

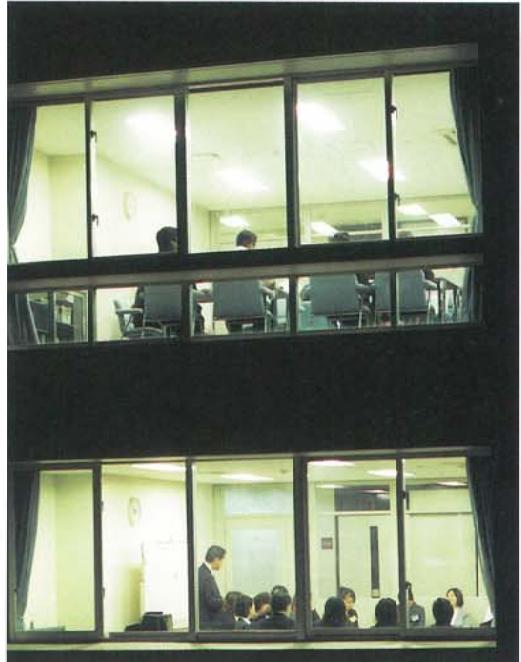
1年の後期10月から就職課のガイダンスは始まる。内容は大きく次の三つに分けられる。

①自己分析：幼少期から今まで振り返って自分を見つめ直す。働く目的を明確にし職業観を確立する。自己PRできるようにする。(これが一番重要だが、最も難しい。我々は自分のことよく知っているようで、実は意外と知らないものである。)

②基本的なマナーを身に付ける。

③業界・企業研究

就職課は、講演、演習、マナー講習、企業セミナー、東京での企業説明会参加者への援助、OG懇談会、父母との懇談会、模擬面接、個人面談、インターネットの利用指導、履歴書指導、模擬試験、公務員試験対策講座等、いろいろな支援活動をしている。



深夜に及ぶ経営者とのフリートーキング



県外就職者との懇親会（東京）

### 4. 卒業生へ

願わくば、卒業前に内定をとってほしい。只、結果的に就職先が決まらないまま卒業してしまう学生は当然いる。又、就職後、転職希望の人もいるであろう。就職課はできるだけ支援したい。既卒対象の求人も割とよくくる。電話(098-946-1363)であれ、Eメール(shushoku@ocjc.ac.jp)であれコンタクトを取ってほしい。(ホームページはhttp://www.ocjc.ac.jp)



宿泊セミナー（県立糸満青年の家）

### 5. 最後に（雑感）

“水辺の近くまで馬を引っ張っていくことはできても、馬にその気がなければ水は飲まない”と謂われるように、就職活動への取組みは、結局のところ本人の意識・自覚に拠る。とは言え、1年生の後期から就職活動を始めなければならないということは、彼らにとっては確かに難儀なことではある。

四大に比べると、短大のカリキュラムは非常にタイトであり、我々は就職指導のための時間を確保するのに苦労しているのが現状である。授業の準備、レポート提出、アルバイト等、キリ短の学生は忙しい。就職ガイダンスへの参加は任意(自由)であり、なかなか全員参加とはいえない。水を飲んでもらうどころか、水辺の近くに引っ張っていくのさえまならない。

継続的にガイダンス等への参加及び就職課のスケジュールに沿って活動してもらえば、相当の動機付け・意識改革ができると確信している。

そのためには例えば、正規の授業科目として位置付け、一貫した骨太の職業教育を各専門分野の方々に担当してもらう。当然単位も授与する。対象学生は何も就職希望者のみではない。進学あれ、留学あれ、いずれは卒業し就職するのである。又は迷路に迷う学生が年々増加している現在こそ、このような授業科目が必要とされるのではないか。

遅きに失した感は否めないが、かの文部省もやっと職業教育に本腰を入れ始めた。それは、小学校段階からの「キャリア教育」の導入であり(参照、日

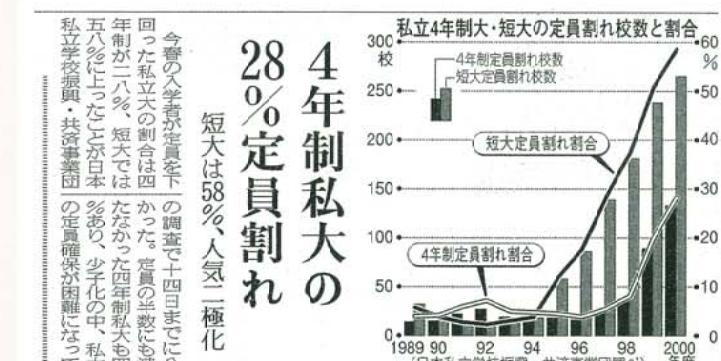
経新聞8/29)、現在多くの大学が実施している「インターンシップ制度」への支援策である。

大学冬の時代と言われて久しく、少子化、構造不況の今日、大学を取り巻く環境は厳しい(参照、琉球新報7/26)。大学の活性化、定員確保のためどの大学も必死である。

相応の授業料を払ってキリ短に入学してくる学生達。当然の教育サービスの一環として出口にあたる就職支援。我々大学サイドに課せられた責務は大きい。

(よぎ・かつひこ)

2000年7月26日 琉球新報



2000年8月29日 日本経済新聞

**28%定員割れ**  
短大は58%、人気二極化  
今春の入学者が定員割れ率  
回った私立大の割合は四  
五年制が二八%、短大は四  
八%以上だったことが日本  
私立学校振興・共済事業団の  
調査で十四日までに分  
かった。定員の半数にも満  
たなかった四年制私大も四  
八%あり、少子化の中、私大  
の定員確保が困難になっ  
たといふ。同事業団は「少子化に加  
え、人気、不人気の二極化  
が進み、特に大都市近郊の  
知名度の低い大学や新設校  
が苦戦している。学生数に  
応じた学校規模の縮小な  
ど、経営努力が求められ  
ること」としている。

調査同事業団が毎年実

行なう「私立大・短大の

調査」によれば、

調査が毎年実行の趣

向だ。

中間報告では、現行の職

務は四百七十一校、短大は

四百五十三校が回答した

(回答率九十九%)

四年制大学の定員を下回

ったのは、前年の八十九校

から、今年は三十三校に増

えた。

調査は、中高生の卒業

する前の進路選択が主

要である。

調査結果によれば、

</



# キリシタスライフ



## 実習を終えて今思うこと

■保育科2年

酒井千春



保育の勉強をして一年が経ちました。現在2年次という最後の学園生活を送っている最中です。将来のことを考えると正直言うと頭が痛くなります。現実逃避しようとする自分がいるのですが、真剣に考えなければならない時の今、目の前に大きな壁となって立ちふさがっています。この壁を乗り越えるには、自分自身が大きな目標を持たなければなりません。

保育士として働くのかと、よく人に聞かれますが保育士として真剣に働く事を考えた事はありませんでした。

しかし、こんな私が意思を固めつつ、保育士の仕事を考え始めたのは今年にいたった、実習を通してです。六月にいたった保育所実習を通して考えたことを述べたいと思います。

子どもは好きだが、保育実習ということで緊張や不安でいっぱいでした。初日から0・1歳児クラスで実習を行い知らない事ばかりに戸惑う事も多くありました。ミルクのあげ方、離乳食のあげ方全てが初めてなので、先生方からはもっと積極的に何でも聞いてきてと言われ、知らない事はしっかり聞いて学んでいこうと思いました。最初から何も知らないからこそ、全ての事が新しく真剣に取り組んでいけるのだと思った。私は、体を動かす事が好きなので園庭に出て子ども達と一緒に走ったり、子どもの自由遊びにも参加しました。子ども達の遊びの中で教わる事がたくさんありました。子ども達は遊びを通して日々成長していること、保育士の子どもに与える影響の大きさなど、教科書だけでは学べないことが実習を通して学べたような気がします。

保育士の役割の重要性を知り、子どもの成長に大きく関わるということの大変さを感じました。しかし、大変さの裏には子どもの健全な発育、子どもから教わることなど常に発見の毎日の内で、喜びや楽しみを感じること多くありました。実習を終えて今思うことは、保育士の仕事がとても素晴らしいと思えること、真剣に保育士として将来を考えようになったこと。私は今、この沖縄キリスト教短期大学に来てよかったですと心から感じています。

## ボランティア活動への期待

■保育科1年

棚原亜沙美



高校時代の3年間をボランティア・サークルに所属していました。そこで活動は、廃油を利用したリサイクル石けん作り、そして牛乳パックを作るリサイクルはがき作りなど環境を意識した活動。また、一人暮し老人の家を訪問する友愛訪問・一日保育士体験・障害児や健常児と一緒に遊ぶおもちゃ図書館などの体験。夏休みになると県内の高校生を中心としたボランティア研修やキャンプなどもあり、多くの活動に参加させてもらいました。これらの体験を通して、多くの友人ができ、多くの人と出会い、異国の人との交流も出来ました。そんな中で一番大きかったことは、ボランティア活動とは、してあげることではなく、

させてもらうことと言うことに気づいたことでした。そこで、自分というものへの認識と同時に社会とのつながりなど、人間ということについて考える機会を得、ボランティアの大切さを学ぶことができました。

その延長として、私は当然、大学はキリ短を選択しました。キリ短には、ボランティア活動を中心とする総合研究の授業や障害をもつ子どもと一緒にキャンプするあめんぼキャンプ、入院介助ボランティアなど多くのボランティア活動へ参加するチャンスがあります。そして、ボランティア・リーダー研修のプログラムもあります。以上のように大学全体がボランティア活動をバックアップしてくれているのは、とてもうれしい事です。

入学してようやく半年が経とうとしていますが、人と接するのが大好きな私は、高校三年間で得たものを生かしながら、自分自身の成長のためにも、より深い、大学でのボランティアについてあれや、これやと考え、そして体験し、学生生活を充実したものにしようと思う毎日です。



## 0から始めること

■英語科2年

仲村綾子

でまとまり、一つになる事ができたと思う。そしてキャンプは「大成功」した。新入生や先生方、職員の方々が「ことしのキャンプよかったよ」「たのしかったよ」と言ってくれた。私の心中では「みんなで楽しいキャンプをつくる事ができた」という充実感で一杯だった。イベントを一つ一つやっていくにつれ、学生会の絆ができる深まっている。

何事もやってみないとわからない。私はそう思う。0からスタートすると学ぶ事が多くて良い。人のありがたさを知ることができる。もちろん、何も経験がなく、初めてというのは怖い事でとても大変である。人を率いるとはどういう事なのか? イベントをつくるとは何からやっていくのか? 私は調べ、何もない分、習い、考え、今学んでいる。何の実績もなく、いろんな事を経験できる事は学生の特権だ。でも多くの人の支えがある事に感謝したい。キリ短は2年しかない。だからこそ何かに専念できると思う。私は会長になってほんとによかったと思っている。

## 留学生紹介2



### 日本へのあこがれをもって

台湾出身 保育科1年 林 晓青



学びたいと考えています。そして考え方や仕組みなどを台湾で活かしたいと思います。将来は、自分の理念を持った幼稚園を作りたいと考えています。

皆さんは台湾についてよく知っていますか。台湾は沖縄の南に位置している島国で面積は三万六千平方キロメートルです。日本の九州よりもやや小さいくらいの大きさです。人口はだいたい二千五百万で台湾では北京語が共通語となっていますが台湾語が多くの人々が親しみを持って使う言葉です。第2次大戦以前に日本語教育を受けた65歳以上のお年寄りはだいたい日本語も話せます。またもっと台湾のことを知りたい人は私に聞いてください。

沖縄では1年中どこでも美しい花が咲いています。また沖縄の人のやさしい心に出会い青い海と青い空を見ていつも気持ちが晴れになり、沖縄がますます好きになりました。神様に恵まれた良い環境の中で、その他、いろんな日本のこと勉強しながら学生生活をつくっていきたいと思います。



# がんばってます!

1957年創設以来、9000人ちかくの卒業生を世に送りだして  
にも、伝統の“キリ短スピリット”が脈々と受け継がれているのが

## キリストと共に

箕面市立保育所

古 武 正 敏

先日、祖父を亡くした僕のクラスの女の子が、「おじいちゃんは、星になったの」と教えてくれた。沖縄であれば、「ニライカナイに行ったの」と言うことになるか。

3年前、僕の第2子・大知は生後5日で死んだ。  
彼は、何処に行ったのだろう。

「神様、大ちゃんを抱っこして下さいね」と、2才の姉が祈りを捧げた。そう、大知は天の國へ行ったのである。

キリ短卒業とともに保育所へ勤めた。技術や見通しが伴わない分、がむしゃらに働いた。その一方で悩みもあった。初の男性採用者としての重圧である。父性、男性らしさを求められた。自身でも課したことで更に苦悩する。3年後に、「自分は自分らしく」という答えを見出し、解放される。ジェンダーフリー

(性差的役割の見直し、男女の固定観念から脱却する)の考え方である。

やがて、体力勝負にも限界が来る。その分、経験が肩代わりしてくれるようになった。今年で10年目を迎えた。この間、現場では、産明け保育(生後57日目から)、延長保育(19時まで)、病後児保育、地域子育て支援、園庭開放、待機児対策(2年令2クラス制)が講じられた。

他市では、公立保育所の廃園と合併、民間委託化、一時保育、24時間保育、幼保の連携、早朝保育の拡充という情勢がある。

児童福祉全体的な事では、保育所保育指針が2度改訂されたり、我々の名称が保育士に変わった。入



所手続きが「措置」から「契約」に変わり、福祉色が薄まった感がある。

経済では、バブルがはじけて以来、市の財政は圧迫された。福祉は経費がかかる。それを抑えつつ、手広くサービスを提供したい意向がある。

保護者も高級車で送迎する時代である。学生時代に嗅ぎとっていた“福祉”的イメージとは、程遠い。生活の為に働くのは勿論、自己実現の為の共働きは今風の生き方である。

さて、改訂保育指針には、「保育に欠ける乳幼児を保育すること」、「地域における子育て支援」が明記されている。今、現場では、園庭開放や子育てサークルに参加できずに子育てに悩んでいる人達への支援を手探りしている。

子ども達の間では、依然としてポケモンの人気が高い。我々保育士・保育所もポケモン同様に進化していくかなければならない。

保育の形式にも流行があり、「コーナー保育(ドイツ等の空間処理の仕方、玩具を取り入れる)」、「縦割り保育」、「乳児の担当制」が試された。

保育内容は、「リズム遊び」、「わらべうた」が浸透してきている。沖縄であれば「エイサー」が目玉になるだろう。

いずれにせよ、理論・技術を磨き、子ども達を等身大に見れる付き合いと感性が一貫して求められてきた。そして、それに応えるための10年間だったような気がする。

が、何かが足らない。そこで話は、冒頭に戻る。キリ短から始まったキリスト教への信仰。公私共にその意志は貫きたい。しかし、少女の言葉にイエス様の名で返答できない。小さき者の祈りは、誠に美しく清らかである。それが実現できない。10年目を迎え、僕の中に去来するのは、キリスト教保育である。“キリストと共に”、大知が応援してくれている。

(33期保育科卒業)



# 卒業生!!

きました。各分野でパワフルに活躍している卒業生ですが、どなたを感じられます。これから益々のご活躍を期待致します。

## インドで学んだこと 平和を担うために

世界銀行(ワシントン在)  
仲座栄利子

私は日本だけでなく、他の国々で幼児期・青年期を過ごしたため、アイデンティティー喪失を長年感じ続けて来た。そういう面では、沖縄キリスト教短期大学との出会いは、アイデンティティー追究の場として多くのきっかけを作ってくれた。卒業後、進学を希望し、東京・アメリカと渡ってきた。現在、世界銀行に勤め、国際開発教育を専門とし、現代社会の問題に直面するという日々を送っている。グローバリゼーションの実態、テクノロジーの普及、メディア等さまざまな社会現象を目の当たりにして強く感じることは、もはや、国境を争う時代ではなく、一人ひとりが国際市民として歩み始めているという事実です。

1999年の夏、私は、インドにある非政府団体教育開発機関UNESCO Learning Without Frontiers: Shikshantar Sansthanで務める事となった。目的は、グローバリゼーションの実態についての調査研究と核問題についてである。

インドで務めたShikshantar Sansthanでは、各国からの研究員らが集まり、世界危機の数々の問題を取り上げ、「開発」の原理について議論を繰り返した。現代社会は、多量生産、多量消費の時代である。しかし、世界人口の20%が、残りの80%の財産を所有し消費しているというが実情である。グローバリゼーションによって、富みある者はそれをどんどん増やし、無い者はどんどん失っていくという現象も事実である。このような物質的価値観に支配された社会的有力者は、その経済的、政治的な権力によって、弱者を利用し、ますます力を増している。

このような地球規模レースの中で、私たちウチナンチュウはどの立場に位置し、もしくはどれを選択しようとしているのだろうか。更に、国際市民としての役割はどうあるべきなのだろうか。真剣に考えなければならぬ時である。20世紀は戦争の世紀だといわれるが、21世紀は平和の世紀とし、人類としての共通意識を前面に出すことが大切ではないだろうか。

核開発を進めているインドにおいて、驚いたことに「広島・長崎の原爆-日本の平和記念日」を記念する国

家の休日を設けていたのである。核開発政策と相反する平和記念日にとまどいを感じながら、私は日本人を代表して、原爆の恐ろしさ、そして戦争の恐怖についてインド国民に伝えることにした。インド新聞、講演会での発表、そして、1000人の小中学生を初め、教師・政治団体・平和記念団体の代表者たちと町中を行進したことを見ている。核の被害者として、日本は積極的に世界平和運動の先端を走っていく責任があると思う。

以下は活動を通して学んだ事を、インド新聞に寄稿した現地の新聞のコピーと日本語要訳である。

私たちは果たして核兵器が及ぼす被害の恐ろしさを認識する事ができるのであろうか。人類はこりる事無く、同じ過ちを繰り返していくのだろうか。人類はこの地球規模レースのゴールをどのように思い、どのような報酬のために一生懸命走り続けているのだろうか。こういった無限なる権力の争いや人類のエゴはどこまで続いているのだろうか。勝者は結果に拘り、それに比べ、残りの者は絶えずその敗因を自己分析する機会を与えられ、更に全体像の仕組みの問題点にまでたどり着く。地球破壊以外どこへも到達しない道をいつまでも踏み続けるのではなく、人類はもっと歴史から学び、新たなる価値観を持ち、新たな道を選択していくべきである。

『日本からの声』India Newspaper 1999年8月

(36期英語科卒業)

カミラ メン・シャード ハーリー モヘジ  
ドーニー ミーラン カー マナネー ケー プラサード  
シングル カー ブラマ

〔世界銀行取締役〕  
6月20日、世界銀行の新規就任取締役として選ばれたカミラ・メン・シャード・ハーリー・モヘジ氏が、世界銀行本部の新規就任取締役として選ばれたドーニー・ミーラン・カー・マナネー・ケー・プラサード氏と一緒に、世界銀行本部にて就任式典が開催された。

カミラ・メン・シャード・ハーリー・モヘジ氏は、世界銀行の新規就任取締役として選ばれた。彼女は、世界銀行の新規就任取締役として選ばれたドーニー・ミーラン・カー・マナネー・ケー・プラサード氏と一緒に、世界銀行本部にて就任式典が開催された。

〔世界銀行取締役〕  
6月20日、世界銀行の新規就任取締役として選ばれたカミラ・メン・シャード・ハーリー・モヘジ氏が、世界銀行本部の新規就任取締役として選ばれたドーニー・ミーラン・カー・マナネー・ケー・プラサード氏と一緒に、世界銀行本部にて就任式典が開催された。

カミラ・メン・シャード・ハーリー・モヘジ氏は、世界銀行の新規就任取締役として選ばれたドーニー・ミーラン・カー・マナネー・ケー・プラサード氏と一緒に、世界銀行本部にて就任式典が開催された。

〔世界銀行取締役〕  
6月20日、世界銀行の新規就任取締役として選ばれたカミラ・メン・シャード・ハ



# 寄付感謝報告

募金への御協力ありがとうございます。ここに感謝をもってご報告させていただきます。

指定寄付 (2000年2月1日から2000年7月31日まで)

個人 3,187,085 円 団体 4,454,047 円 合計 7,641,132 円

## 施設設備

### 【父母】

安里 浩治	10,000
安里 邦彦	20,000
伊是名 興勇	10,000
伊波 弘昭	10,000
嘉数 幸男	10,000
宮城 伸泰	10,000
宮城 正治	10,000
玉城 貴文	20,000
古堅 浩	10,000
高江洲 俊美	10,000
佐久川 正友	10,000
上原 幸典	5,000
城間 美智子	10,000
城間 良雄	5,000
城田 栄	10,000
新垣 明美	10,000
新田 弘	2,000
親富祖 良盛	100,000
世名城 盛定	5,000
石田 芳子	100,000
赤嶺 治彦	5,000
知念 紀彦	100,000
知念 壽伸	10,000
池間 藤夫	10,000
中今 純	20,000
仲村 明	5,000
仲村 恒子	5,000
仲村 春喜	5,000
長井 聰	10,000
長浜 長次郎	20,000
津嘉山 朝保	10,000
渡慶次 正己	20,000
平良 武雄	5,000
名幸 房男	10,000
与儀 登喜子	10,000
久場 良光	10,000
【同窓生】	
与座 久美子	5,000
嶺井 まどか	5,000
阿波連 ゆう子	10,000
伊計 なつき	5,000
浦崎 麻希	5,000
黄 君豪	10,000

屋宜 千賀子	5,000
屋宜 姫那子	5,000
屋良 まゆみ	5,000
下地 直史	50,000
河野 成美	5,000
喜屋武 望実	5,000
喜納 祥子	10,000
儀間 愛香	10,000
吉山 有世	10,000
久場 永里子	5,000
宮城 あやか	10,000
宮城 紗子	3,000
宮城 奈津美	5,000
宮城 明子	3,000
宮本 かおり	5,000
宮里 あすか	5,000
玉城 あんり	5,000
玉城 かつら	10,000
玉城 絵理	5,000
金城 あやの	2,000
金城 かおり	5,000
金城 めぐみ	10,000
金城 朝子	10,000
金城 房代	1,000
具志堅 亜矢	5,000
具志堅 章子	5,000
具志堅 明子	5,000
今西 理絵子	5,000
砂川 藍梨	5,000
砂辺 梨絵	5,000
坂中 さやか	5,000
崎原 優子	5,000
崎浜 綾子	5,000
三宅 真衣子	10,000
山城 千春	5,000
山川 美由紀	5,000
山田 千春	5,000
山里 千春	10,000
諸見里 恭代	5,000
小波津 弘江	5,000
松田 理恵	5,000
照屋 なつき	5,000
照屋 正憲	5,000
上間 紗乃	30,000
上間 正士	5,000
上原 由記子	5,000

上地 牧	5,000
新垣 公子	10,000
新垣 忍	30,000
新垣 鈴香	5,000
真喜志 奈理	5,000
神山 夏子	20,000
瑞慶覧 若菜	5,000
嵩原 桂子	10,000
盛岡 文子	5,000
西銘 志乃	5,000
石川 久美子	20,000
赤嶺 真乃	10,000
川満 智恵子	5,000
前里 美香子	5,000
大城 博奈	5,000
大城 美希	3,000
大城 美香	5,000
大城 麻季子	5,000
大城 悠	10,000
大野 なつ子	10,000
大立 しな子	5,000
棚原 るみ子	5,000
知念 美千代	5,000
知名 尚恵	10,000
池原 文代	10,000
仲座 美香	10,000
仲宗根 りつ子	5,000
仲宗根 恵	5,000
仲宗根 江里	10,000
仲松 理恵	10,000
仲田 さやか	5,000
仲尾 真木子	10,000
長嶺 藤代	5,000
津嘉山 美由紀	5,000
津波古 美幸	5,000
田港 祥代	5,000
田中 祐美	5,000
渡真利 麻紀子	5,000
島袋 利信	5,000
東恩納 桂	5,000
当山 絵理加	3,000
徳元 由加理	10,000
徳盛 美咲	5,000
内間 久絵	5,000
八幡 のぞみ	5,000
比嘉 理絵	5,000

平安山 育美	5,000
平田 有美子	10,000
平良 綾乃	5,000
平良 夕希子	5,000
保坂 麻希子	10,000
木寺 智子	5,000
有馬 直子	10,000

### 【一般】

佐和田 豊三	10,000
和田 新之助	50,000

### 【宗教関係】

大森 泰夫	100,000
よきサマリヤ人伝道所	30,000

### 【宗教学会】

糸満教会	20,000
西原教会	5,000

### 【南部教役者会】

佐敷教会	10,000
読谷教会	10,000

### 【学内関係】

奥田 紗規子	10,000
普天間 初子	22,000

### 【漢那 憲治】

柳澤 千恵子	50,000
--------	--------

【その他】	
沖縄カリスマ短期大学後援会	4,000,000
相愛幼稚園	10,000
昭和レジデンス	40,000

### 四年制大学設置資金

【父母】	
糸洲 昇	3,838

### 【同窓生】

Faith Nobuko Shiroma	20,000
----------------------	--------

### 【宗教関係】

大森 泰夫	100,000
よきサマリヤ人伝道所	30,000

### 【宗教学会】

糸満教会	20,000
------	--------

### 【南部教役者会】

佐敷教会	10,000
------	--------